

秦が統一し、漢が確立した 中華世界の秩序



始皇帝

秦王の政(せい)が、中国を統一。初の皇帝「始皇帝」を名乗る。厳しい法を用い、自らの巨大な墳墓を築かせるなど専政を敷いた。

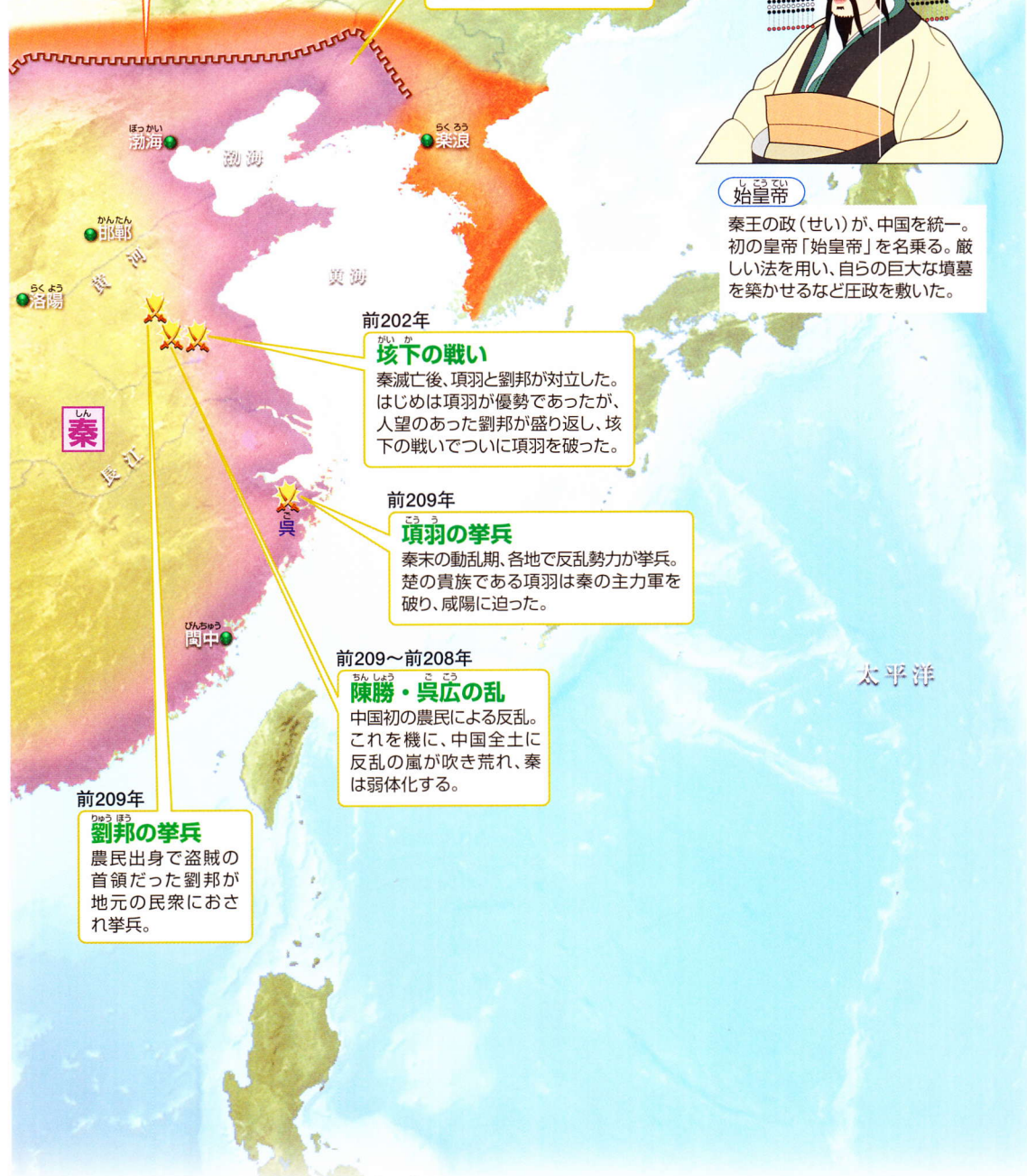
前221～206年

秦の中華帝国誕生

西方の強国秦が、約500年以上にわたり混乱していた中国を統一。政王が、始皇帝を称する。

万里の長城

北方民族の侵入を防ぐために築かれた城壁。戦国時代から築かれ、始皇帝が延長した。



前202年

垓下の戦い

秦滅亡後、項羽と劉邦が対立した。はじめは項羽が優勢であったが、人望のあった劉邦が盛り返し、垓下の戦いでついに項羽を破った。

前209年

項羽の挙兵

秦末の動乱期、各地で反乱勢力が挙兵。楚の貴族である項羽は秦の主力軍を破り、咸陽に迫った。

前209～前208年

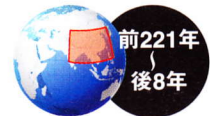
陳勝・呉広の乱

中国初の農民による反乱。これを機に、中国全土に反乱の嵐が吹き荒れ、秦は弱体化する。

前209年

劉邦の挙兵

農民出身で盗賊の首領だった劉邦が地元の民衆におされ挙兵。



前221年
後8年

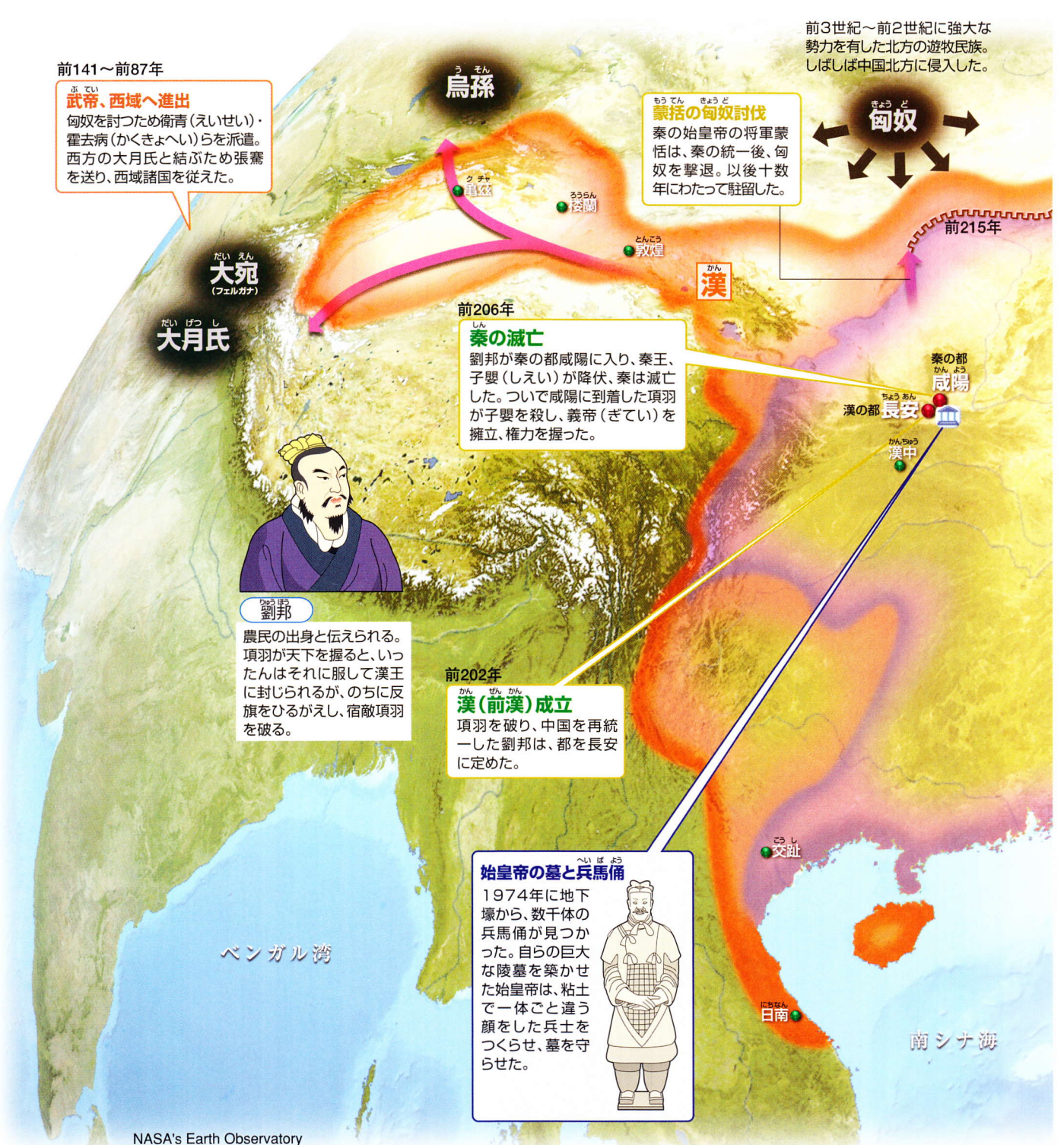
始皇帝の強大な権力を裏付けとして、秦が中国支配体制を確立。短命に終わった秦を見本に、漢は長期政権を築いた。

中国史上初の統一王朝秦の誕生と始皇帝の威光

「戦国の七雄」といわれた強国のうち、西方に位置した秦は、商鞅らの改革(変法)などにより富国強兵に成功していた。そして政王の代に他の6国を滅ぼし、前221年、史上初めて中国を統一した。統一を遂げた政王は都を咸陽に定め、自ら皇帝(始皇帝)を称するようになった。国内統治は、郡・県を基本行政単位とし、長官として中央から官僚を派遣する郡県制(P42参照)を適用し、直接統治による強力な中央集権体制の確立を推進した。また、宰相李斯を用いて焚書坑儒などの思想統制を行ったほか、行政や徴税の円滑化のために文字、度量衡、貨幣、車軌(車軸の長さ)を統一した。さらに、異民族である匈奴の侵入を防ぐため、戦国時代の諸国が建設した長城を強化・延長し、万里の長城を築いた。

始皇帝は自らの威光を全国に知らしめるため、5回にわたる巡幸を行ったほか、咸陽には壮麗な宮殿を建設した。また、後年始皇帝の陵墓付近で発見された兵马俑坑からは、数千体の兵士や軍馬の俑(副葬品)が発見され、改めて当時の始皇帝の威勢が示されることとなった。

しかし、前210年に始皇帝が没すると、過酷な支配に対する民衆の反感が高まり



前141～前87年
武帝、西域へ進出
 匈奴を討つため衛青(えいせい)・霍去病(かくきょへい)らを派遣。西方の大月氏と結ぶため張騫を送り、西域諸国を従えた。

前3世紀～前2世紀に強大な勢力を有した北方の遊牧民族。しばしば中国北方に侵入した。
蒙恬の匈奴討伐
 秦の始皇帝の將軍蒙恬は、秦の統一後、匈奴を撃退。以後十数年にわたって駐留した。

前206年
秦の滅亡
 劉邦が秦の都咸陽に入り、秦王、子嬰(しえい)が降伏、秦は滅亡した。ついで咸陽に到着した項羽が子嬰を殺し、義帝(ぎてい)を擁立、権力を握った。

前202年
漢(前漢)成立
 項羽を破り、中国を再統一した劉邦は、都を長安に定めた。

始皇帝の墓と兵馬俑
 1974年に地下壕から、数千体の兵馬俑が見つかった。自らの巨大な陵墓を築かせた始皇帝は、粘土で一体ごと違う顔をした兵士をつくらせ、墓を守らせた。



劉邦
 農民の出身と伝えられる。項羽が天下を握ると、いったんはそれに服して漢王に封じられるが、のちに反旗をひるがえし、宿敵項羽を破る。

NASA's Earth Observatory

漢字の統一で 中国の文明も統一
 中国では、戦国時代まで、甲骨文字から派生した象形文字をもとに、各地で字体の異なる文字が使われていた。始皇帝は李斯に命じて、秦で使われていた大篆を書きやすく改良した小篆を作成、文字を統一した。この政策により、人々は各地の方言にかかわらず、中華意識を共有することになり、中国文明の統一に大きく貢献することとなった。

を見せ、陳勝・呉広の乱を機に反乱が全国に広がり、前206年に秦は滅亡した。
劉邦が秦末の動乱を制し 漢が長期政権を樹立する
 秦末の動乱のなか、貴族出身の項羽が一度は天下を手にするが、農民出身の劉邦(高祖)が垓下の戦いで項羽を破り、前202年に漢王朝(前漢)を建てた。
 前漢は第7代武帝の時代に最盛期を迎える。武帝は匈奴を挟み撃ちするため大月氏や烏孫に使者を派遣するなど、西域を重視したほか、南越や衛氏朝鮮を滅ぼして領土を拡大した。また、これらの大遠征によって財政が圧迫されると、塩、鉄、酒の専売、均輸法や平準法の制定などにより財政難を克服しようとした。
 しかし、武帝の死後は、大土地所有者が豪族となって勢力を伸ばす一方、朝廷では外戚と宦官の政争が続くなど、漢の政治経済は揺らぎはじめ、後8年、外戚の王莽が帝位を奪って新を立て、漢王朝はいったん滅亡する。